

香川大学に思うこと

教育・平成4年卒・高木 愛

香川県教育委員会との人事交流により、この度着任しました高木愛です。高松、小豆、三観地区で、主に中学校美術科の教員として勤務しておりました。これまで様々な郡市でお世話になりましたが、どの学校においても、松楠会の先輩方に多くのことを学ばせていただきました。

香川大学には、卒業以来約20年ぶりに足を踏み入れることとなりました。私が在籍していた頃とほとんど変わらない場所も残っており、気持ちだけは（一瞬ですが）20代に戻ることができました。しかしながら、新しく研究交流棟が建設されていたり、食堂や図書館が大改修されていたりと変化に驚くことの方が多く、やはり時は流れていたと実感しています。このように香川大学は、学生のみなさんにとって学びやすい環境に進化しています。中でも、私が一番関心を持っているのが、食堂のある大学会館と図書館を結ぶ2階スペースの建設です。大変素敵な場所になるようです。多くの卒業生の方々に訪れていただけると、世代を超えて交流が深まるのではないかと楽しみにしています。

今回、後輩である香川大学の学生たちに関わることができる立場となり、大変嬉しく感じているのですが、それとともに、背筋の伸びる思いで日々過ごしております。よく「昨今の大学生は…」と語られがちですが、どの学生さんも自分の将来の目標をしっかりと持っており、真剣に授業に取り組んでいます。特に、教育学部の学生さんは、卒業後教壇に立つことを夢見て、日々実践的な取り組みを行っており頼もしい限りです。このような素晴らしい後輩たちに出会えたことに感謝し、私自身が多くの先輩方から教わったことを少しでも伝えていけるように、微力ながら頑張っていきます。今後とも、ご指導、ご支援の程よろしく願いいたします。